

英国におけるコミュニティガーデン活動の現状

Outlines of Community Gardens and City Farms Activities in UK

九鬼康彰* 大西早紀** 三宅康成**

Yasuaki KUKI, Saki OHNISHI and Yasunari MIYAKE

1. はじめに ここ数年わが国でも都市部を中心に、環境に関する問題意識の高揚やコミュニティの再生、都市における遊休地の活用といった背景からコミュニティガーデンという取り組みが盛んになりつつある。コミュニティガーデン活動の盛んな国の1つである英国において、コミュニティガーデンとは「都市部の遊休地や郊外の公園の一部、貸し農園、さらには農村部の1区画の農地といったある規模の土地が、地元のコミュニティグループによって耕されているもの」とされている。本報告ではロンドンにおけるコミュニティガーデン活動を中心に、2004年9月に行った聞き取り調査等から得られた活動の具体的な内容と特徴について述べる。

2. 英国におけるコミュニティガーデン活動の歴史 英国では1960年代から、一般市民の土地に代表される地域資源へのアクセスに対する制限等への反発からコミュニティ運動が拡大した。加えて1970年代には経済不況のために都市部で工場や港湾用地が次々と遊休地化したため、彼らはコミュニティ自身の需要に合わせた利用のできる場所として、こうした遊休地をコミュニティガーデンにする活動を始めた。活動は次第に英国全土にひろがり、1980年には各地のコミュニティガーデンとシティファーム（後述）から成る全国組織（シティファーム&コミュニティガーデン連盟、以下FCFCGと略す）が結成されるに至った。2004年時点でFCFCGには59のシティファームと1000以上のコミュニティガーデン、62の学校農場の他、約20の地元コミュニティが運営する貸し農園が登録しており、さらに200を超える登録予定プロジェクトが存在する。またシティファームはドイツやフランス、オランダ、スウェーデン、ノルウェー、ベルギーをはじめとするヨーロッパ諸国においても取り組まれ、国同士の交流も盛んに行われている。

3. コミュニティガーデンとシティファームの特徴 FCFCGによるとコミュニティガーデンやシティファーム、学校農場はそれぞれ表1に示す共通の特徴を持つとされている。これによるとシティファームとコミュニティガーデンの決定的な違いは家畜を飼育しているか否かにある。シティファームが家畜の飼育を行っている意義として、絶滅が危惧される品種改良以前の貴重種を保護する役割を担っていること、子ども達がこれらの‘生きた教材’に直接接触することで英国の畜産の歴史を学ぶことができる、の2点が挙げられる。

コミュニティガーデンやシティファームでは、主としてコミュニティのメンバーが園芸や散策を楽しめるだけでなく、近隣の小中学校と連携した環境教育プログラム（コンポスト作り等）や、コミュニティの人々が就職に必要な能力を習得できる講座（語学、コンピュータ等）の開催といったソフトメニューの他、園内で栽培した野菜等を利用した食事を提供するカフェ等を併設するケースもある。またFCFCGへの聞き取りで特に強調されて

*京都大学大学院農学研究科 Graduate School of Agriculture, Kyoto University

**兵庫県立大学環境人間学部 School of Human Science and Environment, University of Hyogo

キーワード；コミュニティガーデン，シティファーム，英国

表1 コミュニティガーデン等の特徴

Table 1 Characteristics of city farms, community gardens and school farms

シティファーム	コミュニティガーデン	学校農場
<ul style="list-style-type: none"> ・家畜を飼育する ・地元のコミュニティによって管理される ・都市周辺に存在する ・教育やボランティアの機会を提供しつつ、一般に開放されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・作物や他の植物を栽培するが、家畜は飼育しない ・地元もしくは興味を持つコミュニティによって管理される ・都市の中にある放棄地，荒れ地で展開される ・教育やボランティアの機会を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の敷地に立地する ・教育上の目的で家畜が飼育されている ・一部の学校農場は一般にも開放されている

いたのは、活動はボランティアの積極的な参加に負うところが大きい点と、コミュニティの需要が千差万別なために、各々の活動はユニークな発達をし、1つとして同じ活動はない点である。

4. ロンドンにおける活動の特徴

表2にはFCFCGのロンドン支部に登録する49のコミュニティガーデン(31ヶ所)とシティファーム(18ヶ所)における主な構成要素の有無の割合を示す。これによるとシティファームは店舗やカフェ、トイレ、屋根を有するエリア等を備えた比較的大規模な施設が多いことがうかがえる。またそれぞれのプロフィールを見ると、活動の内容には主としてレクリエーション、教育、社会復帰の3つがあることが明らかになった。

具体的に述べると、レクリエーションを目的としたケースでは緑や動物との触れ合いを楽しむ憩いの場を提供し、教育目的では子どもとその家族を対象にした環境ツアーの実施や園芸技術向上のためのトレーニングプログラム等が用意され、これらの経験を通して個人の成長、ひいては雇用につながる可能性も期待されている。さらに社会復帰を目的としたケースでは、さまざまな障害を持った人々に園芸療法等のプログラムを提供するだけでなく、傷害等の罪を犯した青少年の園内での作業補助を受け入れ、更正に役立っている場合もある。つまりコミュニティガーデン活動とは遊休地という「場」を活用した、人種や年齢を超えた交流の創出とコミュニティの質の向上に貢献するものと言えよう。

5. おわりに 英国のコミュニティガーデン活動は耕作放棄地の増加や住民の高齢化、過疎化、混住化の進展に伴うコミュニティ崩壊といった問題を抱えるわが国の農村地域にも参考にできる点は多いと考えられる。今後はより詳細な個別事例とFCFCGの役割について調査し、わが国の農村地域に適した活動内容のあり方等を検討する予定である。

謝辞 今回の調査は平成15年度京都大学教育研究振興財団の助成を受けて行った。現地での調査においてKing's College LondonのDr. Wiltshire, FCFCG London DepartmentのMs. Maund, Ms. Millerにはたいへんお世話になった。この場を借りて深く感謝申し上げる。

表2 ロンドンのコミュニティガーデン(CG)とシティファーム(CF)における主な構成要素の整備割合(%)
Table 2 Ratio of main facilities of community gardens and city farms in London

Facilities	CG	CF	Total
Toilets	61.3	94.4	73.5
Entrance fee	6.5	5.6	6.1
Café	12.9	55.6	28.6
Play area	45.2	50.0	46.9
Wild garden	48.4	83.3	61.2
Play activities	35.5	55.6	40.8
Fully accessible	64.5	94.4	75.5
Hand washing facilities	58.1	100	73.5
Covered area	38.7	66.7	49.0
Shop	19.4	72.2	38.8
Picnic area	54.8	77.8	63.3
Animals on site	3.2	100	38.8
Volunteer	100	100	100